



# 元協力隊かく語りき

～元川西町地域おこし協力隊の塗貴旭が置賜暮らしを語ります～

「春バル」という酒飲み町歩きイベントの翌日、同じ通りを歩いてみたが、前日飲みすぎたのか!?誰も歩いてねー(笑)  
毎日やるから習慣になって、文化になるんだろうな。

「Legend of 1900」(海の上のピアニスト)という映画が好きで、何回も観てる。脚本も映像も音楽もNo.1。素晴らしい映画だ。

ラジオでギター講座やってるけど、我ながら物好きだと思う。  
仕事でギターはじめたら、1曲弾ければ満足しただろうに。



## 「都会人の適応能力」

「地域性」とは何なのか？考えてみれば超不思議。  
まちづくりPRとして活用され、時には酒の席でアツク語る。山形生活5年目、地域性についてかく語りき。

まず、地域性というのは基本的に人がつくるもの。日本の古都を体感したければ、京都に行く。ベタな自分なら。その街をつくらせているのは、昔から、それを築いてきた人々が現在でも継承しているから。つまり、まちづくりに「絶対的なルール」がある。

じゃあ、米沢は？やっぱり、上杉文化が根強い。その実態が何なのか、よくわからない。でも、「質素儉約」という一点に集中して語るなら…「ふるまい文化」、無料だと人が集まったりと、財政面に関してはキッチリしてる人が多いなという印象。これはこれでいいのですが…

僕は大学生の時に「人生、無駄なことが大切」と悟ってしまった。絶対的な正しさなんて存在しないのに、あたかも正しく、自分を律するように見せかけた世界に生きては、何も生まれないのです。でもこれは、しっかり生きれない人の言い訳でもあります。

文化を育むのは、人生に艶を出すために、人間が自然と創造するからです。だから、必要最低限の生活ではなく、時には無駄に思えることから何かを学んで、新しい文化が生まれます。

自分を例えるなら、ギターも写真も執筆も、他人からすれば無駄な事です。しかし、そうすることで僕の人間性が築かれる事は、僕にしかわからない価値です。



このように、時には地域性すらつくる人間という存在は、常に「あいまいな感情」の中にあります。そして、「わかりあえないから、わかりたい」ことが、他人への関心と文化創造の原動力。他人を受け入れる事は多様性への第一歩。そうでなければ何かしらの事に収束してしまいます。結局、地域性とは、他人の人間性を考察した個人的な感情。僕はそう思います。

## 「人間らしい人間、太宰治」

太宰治…Wikiってみたら。やっぱり、私生活はどうしようもないアウトローです。そして、晩年、添い遂げた愛人女性。「山崎富栄」さんが美人すぎる件。国宝級の美女を世の中から1したなんて…もう、どーにかしてください。富栄さんの出身地が東京の本郷…って、僕が通っていた中高の場所だし(笑)  
まー、太宰治と何の関係もない自分が語るのも申し訳ないのですが、言いたいことは、太宰治は実践型のリアリストということ。自分の人生に素直に真っ向勝負。人間関係は綺麗ごとじゃないぜ！墮ちる時はこうなるぞ！でも、最高な時はホントに最高。男女って素晴らしい！これが人生だ！だって、みんなそうだろう？素直になろうよ！と、実践してる人の言葉は、説得力があります。そして、思わず共感してしまいます。本能とか理性とか、後付の言葉だろ！そんな声が聞こえてきました(ヤバイか！?)。ちなみに、日本の文豪の中で、僕が一番好きなのは「森鷗外」です(笑)



# 6月

都会の人って…

People who live in the City

「毎日、仲良く、楽しく、平和に、悩まず、苦勞せず…etc暮らしたら最高！」だとしたら、太宰治ファンにこう言われるでしょう。「お前はすでに死んでいる」。その通りだ！いいぞいいぞ！山あり谷ありだから、僕らはみんな生きているのです。ガガガSP(最高！！)が好きそうな言葉だな。

これだけ情熱的な太宰から学ぶ事は、男女とはわからない生き物だということ。いつの時代も、人は人間関係に悩まされながらも、時には歓喜するという事。幼児期、青年期、老年期というライフサイクルにともなう心理的な変化には逆らえない事。しかし、いつまでも自分に正直だからこそ太宰文学が生まれたという事。

人が多ければ多いほど、人間関係が多ければ多いほど、このような場面に遭遇して、太宰ほどではなくとも、何だかよくわからないけど「にんげんっていいな」(←好きな曲ww)と思ひ毎日を過ごす。都会人は、そういう中で育つ人材です。

経験を積みれば積むほど、様々なパターンを習得して人間関係を学ぶ。そして、個人を形成する。だから、人それぞれが基本。でも、地域によりパターンがあるなら、それは「他人不足」という事。だって、都会の人って、みんな個性的で違いすぎだから(笑)

<大学の時、このような話の参考に読んだ本>

\*注 おもしろくはないです！

- ・ タテ社会の人間関係 (講談社現代新書) 新書 / 中根 千枝 (著)
- ・ 「甘え」の構造 (弘文堂) / 土居 健郎 (著)

# 6月 日常掲示板 (´▽`)

小学生に戻りたいか？…嫌だ。中学生に戻りたいか？…嫌だ。高校生に戻りたいか？…嫌だ。大学生に戻りたいか？…嫌だ。協力隊に戻りたいか？…不明。  
子供に戻りたいか？…戻りたい。はい、人生やり直し決定。

リサイクルショップで3000円で買ったCDプレーヤーが音飛びするようになった。  
というか、前から調子悪かった。ピックアップは掃除して、グリスもメンテしたけど直らない。  
しょうがないから、出力をいじる事にした。2つあったけど、左側のT.R.GAINを勧で回した(笑)  
そうしたら、CD聴きながら調整したら直った。  
GAINを上げすぎると、トラックの頭出しの時にノイズが発生する事が判明した。  
だから、ベストに調整した。あとで、調べたら、調整には測定器が必要だそう。  
もしも、右側のF.GAINを回していたらヤバかった。  
でも、この作業を、夜中の2時ごろにする自分は異常あり。

何かよくわからんけども、テレビを観ていると晩婚化ニュースであふれている。  
事実なので社会現象だと思う。  
既婚者にとっては、このような社会の動向は関心がないかもしれない。  
ドラマや映画も、その手の内容はヒットするんだろうな。  
友達が「何で結婚しなきゃいけないんだろう」と言った時、  
やっぱ誰でも同じ事思うよなと思った。理由とか探したらきりないので、  
「なんとなく、勢いで」と後に振り返れるなら正解だと思う。  
あと、歳を重ねれば色々分かってくるものと思ってはいたけれど、そうではないみたい。  
何事も初めてのことは誰でもスタートが一緒だった。

海外の人と話す時に、いつも思い出すのは、海外研修に行った高校生時代のこと。  
自分にとって貴重な経験だった。1ヶ月という短い期間だったが、その後の人生に大きな影響力を持っている。  
世界には色々な人がいるんだなと、つくづく思った。そして、自分もその一員だと知った。  
この経験は高校生だった同級生にも大きな影響を与えた。  
「海外で働きたい」「ブロードヘアの人と結婚したい」「海外の大学に行きたい」などなど、冗談かと思うことを話す友達が  
多かった。  
が、しかし、高校卒業から14年。その夢を実現している人が多い事が判明した。「青年海外協力隊」「ブロードヘアの  
人と結婚。子供まで」「留学」などなど、当時の思いを実現に向けて歩んでいた同級生に感心した。  
当時は同級生の将来なんて気にもしなかった。でも、ひとつのきっかけで、この14年間、みな努力してたんだと思うと  
自分も前向きに頑張る気になる。  
海外が素晴らしいわけではなく、世界を知るといふか、多文化を知るといふか、こういう経験は人を強くする。  
海外旅行に行った後に、「やっぱ家が一番」現象と同じかもしれない、でもそれは、海外に行ったから自宅の良さに気  
づくというもんだ。協力隊は少し、その片鱗をかじってはいるが…。

明日は月曜で仕事なのに、  
まだこんなこと書いてるんだが何か？  
時計は…深夜3:28。緊急消灯!!  
追記:今日は木曜、深夜2:00。寝ると損した気がする。

最近買った小型スピーカーが意外といい音する。  
アンプ内蔵のもので、アパートだと音大きく出来ないのが  
もったいない。  
どっかで音だしたいな。  
白はダサイかと思ったけど、  
男の部屋には華やかさになる奇跡。  
見てるとさらに気に入った。  
バカだから、上級グレードの最高機種買ってしまいそう。  
2台はいらないな。

「あーあ。何かいいことないかな。」  
という系のSNSを見かけるけど、何を望んでるか意味不明(笑)  
「今日、私と遊んでくれる人、この指と一まれ!!」  
という系のSNSを見かけるけど、誰が集まるのか?(笑)  
気軽に投稿するからメンタル強いな。  
わざわざ投稿しなくてもいいような情報をガンガン投稿してる。  
そのたびに、表示されて大変。だから、月1回くらいしか見ない。  
SNSも考えもんだ。

小方先生の家に行くと、いつも、おばあさんが気をつけて色々つくってくれる。  
こないだは「大学芋」。これが超美味い。歯を治療中でなければ、もっと食べたかった。

自己紹介をする場面になると  
「なぜ、わざわざ川西に？」と聞かれることに慣れすぎて、寝ながらでもしゃべれるようになった。  
5年も住んでるから。定住するかどうか、みんな聞いてくる。  
そんなことはわからない。正直、家賃のために働いてる感じ(笑)  
しかし、小方先生のような親切な人がいるので、まだいるのです。  
ネコが亡くなったようです。あー、かなしい。良い猫だったのになあ…。

NHK「課外授業ようこそ先輩」に大宮エリーさんが出ていた。  
手紙を書く授業で、内容がとてもよかった。  
小学生の男の子が、過去に絶交したという女の子に手紙を書いた。  
女の子が言ってはいけない事を言ったから絶交したらしい。  
男の子は  
「人をこわがるな、社会に出たら色々あるぞ」  
女の子は  
「謝ろうとしたけど、できなかった…」  
もうすでに、小学校が世界の縮図。都会の小学生はませてるな。

とある講習会で「家に帰ってPC開きますか？開きませんよね。スマホで十分」という解釈に超ビビった。  
あれ！？みんな、家でネットしないの？  
そういう自分は、はじめて川西に来た時、テレビもネットもエアコンもなかった。  
1年間、我慢して、ずっと景色を眺めてた(笑)  
ネットは便利だな、やっぱ。Amazonで買い物しすぎだわ。

# 続 日常掲示板（`▽`）

只今、深夜0:38。ものすごく甘いカフェオレを飲んだら、気持ち悪くなった。  
今日のハッピーな事は、吉野家でスタンプを集めるともらえるコップをもらった。

## <門外不出だった話。今書かないと永遠に葬られる協力隊の思い出。大公開。>

よく「何でも知っていて、何でも出来る」といわれる。昔からそうだ。でも自覚はない。  
小学生の時、「雰囲気」という言葉と漢字を書けたことで、クラスの中でもインテリとして君臨した。器用貧乏といえばそうかもしれない。  
しかし、要求される事の多くが、努力すれば出来る事や過去に経験した事がある場合が多い。だから出来るのだ。  
でも、一つ言いたいことは、誰でも初めから何でも出来たわけがない。

かつて協力隊だった友達がよく言っていた。  
「お前は何でも出来るでしょ？なのに超簡単な事でくじるんだよな、わっはははは、天然だからしょうがない。」  
何がしょうがないのか？しかも、なぜか上から目線だけど、確かに誰でも出来るような事が出来ない時がある。  
小国の道の駅で、その協力隊とトイレ休憩していた時、コーヒーでも買ってあげようと思った。  
「無糖のこれだな！」ということまでリサーチして、銘柄もよく選んだのに、ボタンを押して出てきたのは冷たいコーヒーだった。  
自分はいつものホットココアを買い、普通の人の感覚なら、間違えて買った冷たいコーヒーを自分が飲んで、ホットココアを友達にあげるべき！  
らしいが、そのまま冷たいのを渡した(笑)  
「だから天然なんだよな、寒くて死にそうなんだけど…」と言われ、自分は爆笑した。

なぜ、小国に行くのか？それは、かつて協力隊の先輩がいたからだ。  
その先輩は我々、川西協力隊2人組にとって、もはや神の域に達した人。そして女性。我々2人は、こんな女性、今まで会ったことないという人だった。  
住まいは小国の中でも限界集落どころか、末端集落。最後の家だった。冬はハンパない積雪、毎日4時起きで除雪。買い物も一苦勞。  
なのに、いつも料理をつくって我々をおもてなししてくれる。料理がやたら上手い。  
大阪の人なので、お好み焼きはやたら上手かった。ソウルフード恐るべし。いつも帰り際、お土産をくれたり、ほんと気づかいの人だった。  
この辺が関西文化の親切さだったりする。  
自然環境が厳しいのに、他人にそうできる精神がすごいなと思い感心した。僕が協力隊になった時、日ごろのよもやま話をよくした。要は同じ境遇の話し相手が必要だった。

よく3人で話したが、僕が一番年下だった。だからイジられた。もう先輩隊員は神なので、何を言っても適切な答えが返ってくる。  
それを川西隊員が「そうだそうだ！」と僕を追いつめる(笑)だから吹雪の中、冷たいコーヒーで仕返した。

現在はみなバラバラになって、会うことはなくなった。でも、今思い出しても楽しい日々だった。  
先輩は四国に行った！（こういうところが神）、川西隊員は東京に戻った。僕はステイ・ヒアーという感じ。

このように、僕は、日ごろ「何でも出来る」と言われているのに、この先輩の前では「何も出来ない」人間になった。  
こんなにも軸がしっかりした人っているんだな。スティックで人に頼る事はまずない。

その小国の神協力隊に言われて、今でも覚えている事がある。それは、川西のチャラけた隊員が、あろうことか先輩隊員に結婚の話題をふり、僕をダシに使いだした。  
川西隊員：「塗さんみたいなのは、どんな相手がいいんでしょうかね～年上ですかね年下ですかね？」  
神協力隊：「ん～、まあ、歳がどうこうってなわけじゃなくて、塗君は楽だからね。一緒にいても」  
この神コメント。「楽」なんて初めて言われた僕は一生忘れません。

神隊員から学んだ事はたくさんありますが、一番は、町おこし云々ではなくて、自分がやりたいと思うことに対するひたむきさ。  
あの人は、本気で自分がやりたいと思うことに向き合っていた。  
そういう「雰囲気」が、言葉から、態度からよくわかった。こんな人いるんだ・・・と思うのと同時に、町おこしというなら、  
これぐらいスティックじゃないとダメなのかと思った。話すたびに、その辺のせめぎあいがいつもあったから、けっこう話し合いは疲れた(笑)

自分にとって協力隊で学んだことは、いろんな人にふれて、つくづく十人十色だと実感したことですかね。濃い3年間だったな。